

# そよかぜだより

第93号  
発行 2010. 2. 21  
毎月1回発行  
社会福祉法人  
そよかぜ

### 連絡先

ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

## ひばり園の現況 景気回復のきざし？

### ベアリング、農機具、増加傾向

### 古紙単価もわずかながら上昇

ひばり園では、昨年の十二月から新施設での業務が始まりましたが、ちょうどその頃から、それまでどん底状態だった仕事量が増え始めました。その傾向は今年になってからさらに強くなり、二月現在でひばり園はフル稼働に近い状態です。

それまでは少ない仕事をみんなに分けて、仕事が全部なくなると後の時間をどうやって過ごすか、職員が頭を悩ましていたのですが、いまではその悩みからすっかり解放されました。スマイル工房やその他の外注先にも少しずつ仕事が回せるようになりました。こうなると園内にも活気が出てきます。施設は新築

のピカピカで気持ちが良いし、仕事が十分あればみんなのやる気も出てきます。せっかくな新しい施設になったのに仕事がなくてぶらぶらするようでは困ったことだと前は心配していたのですが、ありがたいことにただ今ひばり園はまことに良い状態です。

さらに資源回収で集めている古紙も、ここにきてほんの僅かですが単価が上がりました。昨年の春から長いあいだかかってなかったような底値がつづいていたのですが、やっと動きが出てきました。紙は素材産業ですから、これが動き始めたということは各企業の活動が活発になり始めた証拠です。

百年に一度といわれた大不況もようやく出口が見えてきたようです。ひばり園は新施設になって前に分かれていたあおぞらと合流したおかげで、その日の仕事量に応じて人員の配置が自在にできるようなりました。仕事の環境も良くなったので全体の作業能力は向上しています。景気が回復して仕事が増えることは大歓迎です。

今後の見通しは明るいのですが、ここで一つ大きな心配の種が出てきました。トヨタのリコール問題です。全米でトヨタたたき（バッシング）が始まり、国内でもプリウスのリコールで大さわぎです。ひばり園がベアリングを受注している(株)ジェイテクトはトヨタ系列です。トヨタの業績が落ちるとジェイテクトの生産量も落ち、ひばり園にくる仕事も少なくなります。ベアリングは授産活動のメインの

ご協力ありがとうございました。 1月の募金 35,216円  
(順不同) 平成21年4月～22年1月の合計 326,691円

とまと美容室	様	藤野 和子	様	臼井 道代	様
帯刀 幸子	様	鈴木 勝	様	北野 浩美	様
加部 妙子	様	井上 誠一	様	田中 明子	様
山下 暉枝	様	大野 元雄	様	橋本 亜紀子	様
濱野 岬	様	森田 勝	様	平岡 知子	様
天満 喜代子	様	宇津木 牧夫	様	竹内 照夫	様
袴田 実	様	川崎 利男	様	増田 一仁	様
山崎 六雄	様	国本 昭治	様	宇津木 忠雄	様
大内 たま子	様	斉藤 忠	様	桜沢 富子	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	角野 克子	様
角野 満壽子	様	本間 正彦	様	田中 稔	様
小沢 達子	様	平野 嘉子	様	大野 素子	様
山影 幸子	様	下田 コウ	様	桜沢 喜作	様
吉野 満里子	様	永岡 智恵子	様	ア-バンパ-ティックス	様
阿部 郁子	様	(株)八洋	様	匿名様(2,707円)	

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市栄町3-3-1  
042-578-0855

くれよん1月の売上げ  
716,280円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さい。ありがとうございます。

## 社会福祉法人 そよかぜの

# 《資源回収》に

ご協力をお願いします  
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

1月は25,360tでした。金額は383,578円となりました。この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

3月は第3日曜日21日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

自分の気持ちや考えを説明できる人・できない人

## みた夢を言葉にできる人・できない人

生まれつき視力に障害があつて目が見えない人も夢を見ます。ただ、目の見える人たちは普通に「夢を見る」といいますが、生まれつき目が見えない人の夢は、見るのではなく「聞く、触(さわ)る」夢です。つまり夢を聞く、夢を触るようになります。

もうかなり前のことになりましたが、ひばり園の利用者で、

視力障害の人がいました。知的な障害はなかったので会話は自由にできました。

「君のお父さんはハンサムだねえ、男前だなあ」と私が話しかけると彼は「そうですか、僕は父の顔も母の顔も見

たことがないので分からないんです。でも顔に触ったことはありますが、手で触った感覚ではそんなことは分かりません。男前などということは何で見て言うことだから」と答えました。それを聞いて私は、なるほど確かにそうだなあと感心しながら、自分は視

いわけです。そのため「見る」という能力が全く育ってないので夢でも見ることはできないいわけです。

人生の途中で、病気や事故のために視力を失った人は見ることを経験しているのだから「見る夢」をみる事ができます。そのような人もひばり園の利用者にいました。その人の話によると、夢の中で景色や人の顔がはつきり見えたのに目が覚めると何も見えなくなっていた。そのときは、くやしき手に手に触れた物を壁に投げつけたこともあった。だけどそんな経験を何回もしているうちに慣れてきて、

景色や人の顔が出てきたらそれを見ながら、ああ、これは夢なのだと思うようになった、と話していました。

視力障害があつても知的障害がなければ、夢について人にも分かるように説明してきます。ところが知的障害があると言葉で説明する力が弱いので、夢のように自分の頭の中だけで起こったできごとについては、本人が言うてくれないければ、その表情や態度

をみてこちらが想像するしかありません。それはまるで着ている服の上から痒いところを掻くようにもどかしい感じます。できることなら頭を開いて中を見たいような気持ちになることもあります。

私の息子は重度の知的障害者です。ある夜中、寝ている最中にいきなり大声を出して目を覚まししました。そばで寝ていた私はびっくりして「どうした、どうした」と聞きま

したが何もいみません。目を大きく開けてまわりをキョロキョロ見えています。やがて四つん這いになって部屋の中をぐるぐる這い回りはじめました。どうやら何かを探しているような様子です。息子がほしがるような物をいろいろ持つてきてみましたが、どれも違います。そのうち「お母さん」と一言いきました。

それでようやくこちらも分かってきました。どうやら夢をみていて母親が出てきたらしいのです。それで喜んで大声を出したのだと思います。息子には夢と現実の違いが分からず、目が覚めても夢に出

て探し始めたようなのです。重度の知的障害があつても、かつて脳が経験したことは夢で見ることができるようです。しかしこのことは良い面と悪い面があります。息子のよう

に夢と現実の違いが分からなくなつてしまします。視力障害の人は、はたから見てもその人に欠けているものがすぐ分かります。したがってサポートをするにも、その人の目の代わりになつてあげれば、ほぼ要求に込えることができます。そういう意味では支援の仕方が分かりやすい障害です。しかも先の話のように自分の方から言葉で説明してくれば、その人の考えや気持ちがよく理解できるので対応を間違えることはほとんどありません。

ところが言葉のない人や、言葉があつても他人に分かるようにうまく話せない人の場合、本人が頭の中で考えていることは、こちらが想像して推察するほかはありません。

知的障害の人と付き合つて、私はしばしば強い欲求に駆られることがあります。いろんな場面で、いまこの人は何を考えているのだろうか、どんな気持ちでいるのだろうか、それを知りたいという欲求です。それが分かれば、この人にどう言えばよいのか、何をすればよいのか、その答えが出てきます。長い付き合いですから、いままでの経験でなんとなく、こんなことだろうと想像はできるのですが、服の上から掻くようなはがゆさをいつも味わっています。

夢というものは、本人以外は絶対に見ることができない脳の中の出来事ですから、これを「鍵」にして説明すれば話が分かりやすいだらうと思

いました。自分の頭の中を自分で説明できる人と、できない人の違いはあまりにも大きなものがあります。その意味で知的障害の人は実に手ごわい相手ですが、なんとか中を知らりたいとする姿勢だけは崩せないと思います。このように考えると、その人たちが背負っているハンデの重さをあらためて思い知ります。